

Japan Society of Civil Engineers
International Activities Center

委員会活動

鋼構造委員会活動紹介



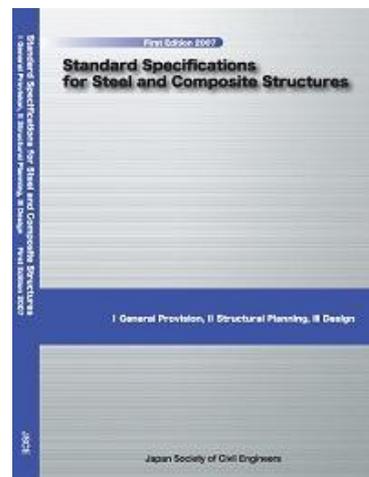
鋼構造委員会委員長
東日本旅客鉄道(株) 野澤 伸一郎

鋼構造委員会は、土木工学分野における鋼構造に関する学術、技術の発展に寄与することを目的として、1971年に橋梁構造委員会から、構造工学委員会と機能を二分して設置された。以来、その目的達成のため、鋼材・鋼構造物などに関する研究・調査、講習会・シンポジウムなどの開催、刊行物の企画・編集などの活動を行っている。

2015年11月現在、16の調査・研究小委員会が活動中である。調査・研究小委員会は、その活動成果報告を鋼構造シリーズとして出版するなどして、成果の公表に積極的に努めている。また、常設の小委員会である、鋼・合成構造標準示方書総括小委員会は、性能照査型設計法に対応した国際競争力のある基準を目指して、「鋼・合成構造標準示方書（総則編・構造計画編・設計編：2007年、耐震設計編：2008年、施工編：2009年、維持管理編：2013年）」を制定・出版し、2010年には「総則編・構造計画編・設計編」の英文版を出版した。各編は現在その改定作業中であり、「総則編・構造計画編・設計編」は2016年に、「耐震設計編」は2017年に改定する予定である。

また、日本の鋼構造に関する国際情報発信を目的として2007年に設置された「海外交流小委員会」は、日本の鋼構造技術を諸外国に紹介するとともに、鋼・合成構造標準示方書を紹介したり、海外における鋼構造技術に関する情報を収集しており、諸外国との技術交流を積極的に推進している。これまでに、オーストラリア（2009年）、タイ（2009年）、バングラデシュ（2010年・2015年）、カンボジア（2010年・2011年）、ベトナム（2012年）において交流シンポジウムを開催してきた。

情報発信活動の一環として、鋼構造委員会またはその調査・研究小委員会の過去の編集出版物や論文報告集などを電子アーカイブとして公開しており、委員会ウェブサイトから電子ファイルをダウンロードすることを可能としており、委員会活動の成果を広く公開している。



鋼・合成構造標準示方書 英文版

<http://www.jsce-int.org/about/guideline>

このほか、鋼構造委員会では、「鋼構造と橋に関するシンポジウム」を年1回、鋼構造基礎講座を年2回、鋼構造技術継承講演会を年1回、小委員会の成果に基づいた講習会などを随時開催し、委員会の活動成果の会員への還元や継続教育を通じた会員の鋼構造に関するスキルアップを目指した活動を積極的に実施している。



今後、自然災害に備えた鋼・合成構造物の防災・減災対策技術や既設構造物の長寿命化技術・性能回復技術に関する開発研究などを重点テーマに設定し、安心・安全な鋼構造物の実現に向けた活動を継続していく予定である。さらに東アジア・オセアニア地域の学協会との交流を深め、鋼・合成構造に関する東アジアコードの作成に向けた活動も展開したいと考えている。

(写真左)2015年バングラデシュでのIABSE-JSCE Joint Conference

参加報告

2015 米国土木学会 (ASCE) 年次大会参加報告

米国土木学会の年次大会が2015年10月11日～14日の間、ニューヨークのタイムズスクエアのマリオットホテルで開催された。土木学会からは廣瀬会長らが参加した。以下にその年次大会の概要を紹介する。

1. ASCE Convention 2015

(1) オープニング セッション

2日目のオープニングセレモニーでは、ベストセラー作家のルーク・ウィリアムス氏による「ビジネスを変革する想定外の思考」の題目で基調講演があった。非常にウエット富み、効果的なプレゼンテーション講演で会場を盛り上げていた。

(2) ASCE 功績賞等の表彰

ASCE 功績賞の受賞式は、2日目の昼食会に行われた。今年度は18名の会員が受賞し、受賞式では研究功績の紹介のあと、受賞者からのスピーチがあった。また、ASCE リーダーシップ

賞の受賞式は3日目の朝食会に行われた。この賞は、土木技術あるいは社会の発展に貢献した会員に与えられる。受賞式では、ニコラス・デ・ニチロ氏による「土木技術分野でのリーダーシップ-ビジョン、挑戦、目的-」と題した基調講演があった。

(3) ASCE 新役員の紹介

ASCE 功績賞受賞式典の冒頭にボブ・スティブンス会長から、会長としての数々の業績が語られ、特に海外へのアウトリーチ活動の紹介があった。次に、2016年会長のマーク・ウッドソン氏に小槌を手渡すことにより引継ぎが行われるとともに、2017年会長としてノーマ・ジーンマテイ博士の紹介があった。ウッドソン氏は、アリゾナ州の建設コンサルタントを営し、州の様々なプロジェクトのアドバイザー等を務めるなど、豊富な経験をもつ技術者である。式典では、彼の4人の子供たちから祝福のメッセージがあった。

また、ベクテル社がスポンサーの「Dream Big Film」の紹介があった。この企画は特に若手技術者への土木分野へ関心を持ってもらうよう3Dの大画面かつ大規模プロジェクトの計画に関するものである。



マーク・ウッドソン新会長のスピーチ



コンカレント・セッションの様子

(4) コンカレント・セッション

年次大会では、並行して多くの研究討論会が開催された。私は、「ASCE2013 レポート・カード：インフラのグレードはあがったか？」および「土木分野におけるダイバーシティ&インクルージョン：改革とベストプラクティス」に参加した。ダイバーシティ&インクルージョンのセッションでは、様々な立場から先進的な取り組みやベストプラクティスの概要の紹介があった。

2. ASCE と JSCE の連携強化

(1) ASCE-JSCE ミーティング

廣瀬会長、スティブンス会長、ウッドソン新会長、トーマス専務理事らの参加のもと JSCE と ASCE とのミーティングが持たれた。ミーティングでは、冒頭に 9 月の関東・東北豪雨災害について概要を説明し、その後、来年ハワイで開催予定の CECAR7 の準備状況と 2019 年の日本での CECAR8 に関して

情報を交換した。また、JSCE が中心として立ち上げる新しい防災に関する TC への参加と協力を要請したところ、ASCE サイドから専門家の参加等を確約した。

また、ASCE のレポート・カードを参考に取り組んでいる JSCE の「社会インフラ健康診断」の状況と市民への公表方法等の課題に関して説明が行われ、ASCE からのアドバイスがあった。加えて、JSCE の気候変動に対する取り組みを『気候変動への適応・緩和策』の英語ドラフト版により説明した。

(2) ASCE-JSCE の連携協定の更新

ASCE の関係各国の学会との AOC の更新（3 年毎）が 13 日のランチョン・ミーティングにおいて執り行われ、JSCE との AOC のサイニングには、ASCE 側からウッドソン新会長、トーマス専務理事、JSCE 側から廣瀬会長、塚田専務理事により実施された。



ASCE-JSCE ミーティング



集合写真（昼食会にて）

【記：土木学会専務理事 塚田幸広】

参加報告

2015 大韓土木学会（KSCE）年次大会参加報告

今年も大韓土木学会（KSCE; Korean Society of Civil Engineers）より、日本の土木学会（JSCE）に対して、年次大会である KSCE 2015 Convention にご招待いただいた。JSCE からは、廣瀬会長、京都大学間瀬教授、国際センター国際交流グループの韓国グループメンバーである白氏（株式会社長大）、勝濱の 4 名が、韓国全羅北道群山（グンサン）市で開催された大会に参加した。

なお、今回の年次大会の機会を利用して、アジア土木学協会連合協議会（The Asian Civil Engineering Coordinating

Council; ACECC）の理事会も同じ会場で開催された。JSCE からは、ACECC 理事会についても別途参加者を派遣している。

今回の訪韓の機会を利用して、JSCE 韓国分会のメンバーとも交流の機会を持った。以下の表に JSCE 訪韓団の主な行程を示す。

《JSCE 訪韓団の主な行程》

日付	内容
10/27(火)	JSCE 韓国分会訪問、懇親会実施（ソウル泊）
10/28(水)	群山に移動、Welcome Reception 参加（群山泊）
10/29(木)	・セマングム（新萬金；Saemangeum）プロジェクト見学 ・CCAW-ACECC International Seminar 参加 ・KSCE-JSCE ミーティング、Banquet（群山泊）
10/30(金)	群山よりソウルに移動、帰国

JSCE 韓国分会は、ソウル市江南区に事務所を構えており、分会員の交流拠点になっている。また、同分会では SNS アプリである BAND を用いた交流を行っている。金在權会長には、世界最大規模の 33km におよぶ防潮堤を有するセマングムプロジェクト見学の便宜も図っていただき、大変お世話になった。

CCAW-ACECC International Seminar では、水資源分野における気候変動適応策について議論が行われ、JSCE からは、間瀬教授が” Analysis of seawall stability and adaptation method for climate change ”と題してプレゼンテーションを行った。



KSCE-JSCE ミーティング

KSCE-JSCE ミーティングでは、JSCE が提案して、今回の ACECC 理事会で設立が承認された減災・防災に関する新たな技術委員会 (Technical Committee; TC) や、アジア土木技術国際会議 (Civil Engineering Conference in the Asia Region ; CECAR) における協力、支部間交流の活性化、JSCE と KSCE 会員特典の相互利用などについて意見交換を行った。

Banquet では廣瀬会長が挨拶を行い、招待に対するお礼と、長年続いている KSCE-JSCE 間交流の更なる進展に対する期待について述べるとともに、ACECC の新 TC への協力を各国からの参加者に呼び掛けた。



セマングムプロジェクト見学

【記：土木学会 会員・企画課 勝濱良博】

イベントカレンダー

●2015 年 12 月 19 日

第 3 回留学生向け企業説明会 (東京 土木会館)

※参加申し込みは以下の URL からお願いします

<http://www.jsce-int.org/node/381>

お知らせ

●土木学会誌の特集記事の概要を JSCE の Website (英語版) にアップしました。<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>

●土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No. 42 が発行されました。

http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/New_sletter.htm

●学術交流基金管理委員会 国際ジョイントセミナー「一般公募」を新設しました。<http://committees.jsce.or.jp/iefund/node/12>

購読申込み

国際センター通信購読の申し込みは以下の URL よりお願いいたします。また、周囲の方に国際センター通信をご紹介いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

〈国際センター通信配信希望者登録フォーム〉

- ・日本語版 <http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>
- ・英語版 <http://www.jsce-int.org/node/150>

掲載記事募集します！

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。文字数は 800 字程度で和文または英文でご投稿ください。

〈記事投稿の詳細はコチラ〉

<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>

国際センターFacebook

国際センターの英語版Facebookです。直近の国際センターの活動について紹介していますので、ぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/JSCE.en>



編集後記

かつて体験したアイスランドの新年は、人々の花火の乱射と共に賑やかにやってきました。他の欧州諸国もそうだと聞きます。私の故郷では、しんと降る雪と静かな鐘の音と共に新年が訪れます。国際化・情報化は、各地の文化を一様化する働きもありますが、自国の文化は残したいものです。日本の土木技術も独自の素晴らしい技術があります。国際センター通信は、それらを世界に発信する一助になれば、と思う年の瀬です。(R.T)

〈 ご意見・ご質問 〉 JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。

§ 国際センター情報グループ幹事会 メンバー募集のご案内 §

土木学会国際センターには、毎月の「国際センター通信」の発行や英語版 HP、Facebook による情報発信を担当する情報グループ幹事会があります。

このたび、土木学会の調査研究委員会や国際センターが行っている国際活動に関する情報発信を強化するため、新規メンバーを2名程度募集します。詳細は以下の URL にてご確認ください。

➤ 情報グループ幹事会メンバー募集 : <http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/92>